



7

過去の日付

1861年5月30日

シャルル・ガルニエが新しいオペラ座の建築設計コンペで当選する。

1862年7月21日

最初の礎石が置かれる。

1870～1871年

戦争とパリ包囲のため建築が中断され、新オペラ座は店として利用される。

1875年1月5日

オペラ座の落成。

1887年1月1日

ガルニエ宮全体の照明が、ガスから電気になる。

1923年10月16日

オペラ座が歴史的建造物に指定される。

1925～1932年

正面ファサードの修復。

1950年～1953年

ロジシアの修復。

1964年9月23日

マルフ・シャガール(1887～1985年) 天井画の完成。

1971年

舞台装置技術の近代化。

1994～1996年

観客席と舞台の修復。

2000年

正面ファサードの修復。

2003～2004年

グラン・フォアイエの修復。

2011～2014年

西側ファサードとロンド・デ・ザボネの修復。

2015年

北のファサードの復元と

オペラ座寸法

長さ 173m、幅 125m、

敷地面積 11 237m²

竖琴を持つアポロン像が立つ

ドーム高さ 73.6m

舞台寸法

奥行き 27m、合計幅 48.5m、

間口幅 16m、高さ 60m、

面積 1200m²

観客席数: 2081

ルニエの胸像(複製)がフォアイエ中央の窓側にあり、そこからはルーヴル宮へと続くオペラ大通りが望めます。この眺めはロジシアから見ると、よりスケールが大きく望めます。途中に通る太陽のサロンと月のサロンは、象徴的かつ詩的な場所となっています。

オペラ座図書館・博物館

オペラ座図書館・博物館⑦(フランス国立図書館)には、300年にわたる上演演目の楽譜などが収められ、博物館のギャラリーには絵画やデッサン、写真、舞台立体模型などが常時展示されています。帝政の終焉後も、オペラ座の諸局は未完のままでした。特別展示ホールにつながる階段には、土台石が1870年と同じまの状態が残存しています。皇帝のロンドンに設置された閲覧ホールへのアクセスは、研究者に限られています。

オーケストラの回廊、玄関ホール

オーケストラの回廊から、ガルニエ宮を最後にもう一度眺めることができます。ここではオペラ座の歴史に関連した視聴覚メディアが設置されています。玄関ホールには、作曲家ラモー、リュリ、グルック、ヘンデルの彫像があり、出口へとつながっています。

お問い合わせ / 各種サービス

www.operadeparis.fr

見学 08 92 89 90 90

オーディオガイドサービス

説明ガイド付き見学 08 25 05 44 05

現場を訪問 01 40 01 24 60

LA GALERIE DE L'OPÉRA

(書籍 & プレイツフ): 毎日10時～18時30まで。また
演目開催日の夜は、演目終了時までオープン。

L'OPÉRA RESTAURANT 夜8時から12時まで(ラスト
オーダー)ご予約: 01 42 68 86 80

opera-restaurant.fr



現場を訪問

www.operadeparis.fr



オペラ座アプリケーションのダウンロード



SIRET OPÉRA: 784 396 079 00054
RCS PARIS 784396079/LICENCES:
1-1075057, 1-1075038, 2-1075039, 3-1075040
企画: DREAM ON - PARIS
PLAN DU PARCOURS © CONTOURS
印刷: STRA - MONTREUIL CERTIFIÉE ISO 14001
写真 © JEAN-PIERRE DELAGARDE/ONP
S/A/G © BRODBECK ET DE BARBUAT/ONP
表紙: グラン・フォアイエ



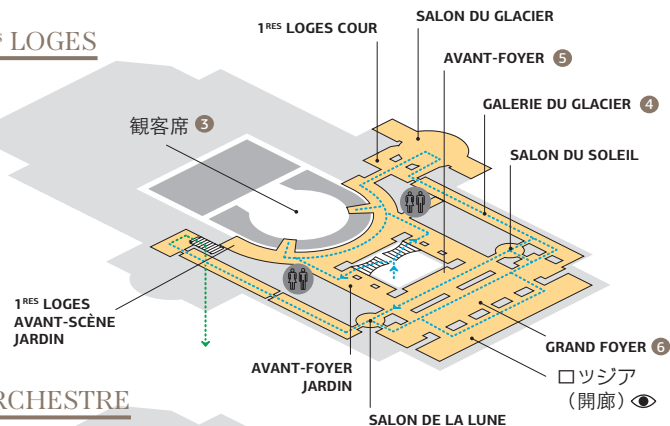
OPÉRA
NATIONAL
DE PARIS

BASTILLE · GARNIER · 3^E SCÈNE

PALAIS
GARNIER
見学

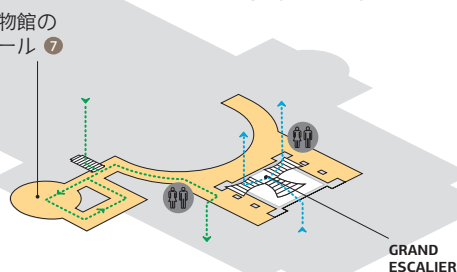
見学順序

1^{res} LOGES

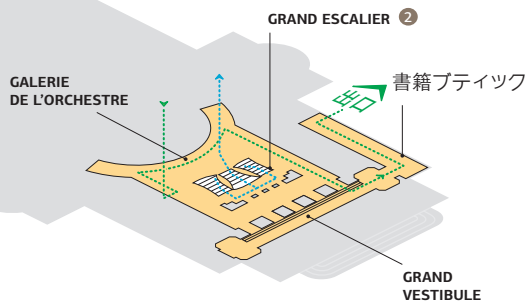


ORCHESTRE

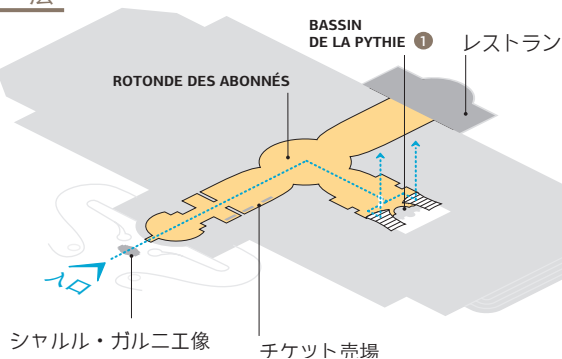
図書館・博物館の
特別展示ホール ⑦



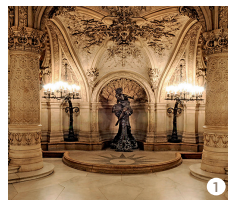
PARTERRE



第一層



第二帝政末期の1861年、ナポレオン3世の命令により、シャルル・ガルニエが「新しいオペラ座」の建設に取り掛かります。これは、知事オスマンが取り組んだパリ市街の改造計画の一環でした。第三共和政時代の1875年1月5日に落成されたオペラ座は、折衷的かつ豪華で大胆な建築スタイルと、ガルニエ考案の装飾で同時代の人々を魅了します。ガルニエの名建築は、その時から機能的かつ豪華絢爛なイタリア式劇場のモデルとして名声を博し、ガルニエ宮は今日、世界でも最も美しい劇場の一つに数えられています。



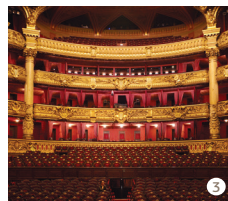
ピュティアの泉、大階段

かつて観客を迎え入れた円形ロビー「ロトン・ド・デ・ザボネ」を通るとピュティアの泉①があり、そこから大階段②と高さ30メートルにもおよぶ豪華な吹き抜けの間へとつながります。この中央広間は色彩豊かな大理石で作られ、左右に分かれた階段からフォアイエと呼ばれるロビーや各階の観客席へとアクセスできます。階段の下には、光のブーケを手にした2体の女性像が観客を迎え入れ、歌劇場の中でのさらなる演劇的な演出がなされています。



観客席

イタリア式劇場の伝統で、観客席③は舞台を見るだけでなく、客席側も「見られる」構想でつくられています。カテゴリー別に配置される観客席はフランス式と呼ばれ、馬蹄型をしています。金属製の構造は、大理石、漆喰、ピロード、金メッキで覆われており、この構造が重さ8トンにもなる340もの電球が付いたクリスタルとブロンズのシャンデリアを支えています。シャルル・ガルニエの指示にしたがって舞台の幕を手掛けたのは、劇場の画家兼装飾家のオギュスト・リュベ(1817~1899年)とフィリップ・シャブロン(1823~1906年)。幕は1951年と1996年に、同一のものに新調されました。マルク・シャガールによる天井画は、1964年9月23日に除幕されました。



グラシエの間、フォアイエ

長い回廊の端には、グラシエの間④があります。フレラン(1843~1919年)による天井画がある、明るく清々しい円形のサロンです。周囲はバッカスの巫女や牧神の装飾や、飲み物や釣り、そして狩りの場面を表したタピスリーがあり、ガルニエ宮のオープン後に完成したこのサロンは、ベル・エポックの美学を彷彿させるものです。アヴァン・フォアイエ⑤の丸天井は背景が金で、きらびやかな色のモザイクが施されています。そこからの大階段がある中央広間への眺めは、目をみはるものがあります。フラン・フォアイエ⑥は鏡と窓の効果でさらなる空間の広がりを出しています。天井にはポール・ボードリー(1826~1886年)により描かれた音楽史の寓話が見えます。装飾のメインモチーフは竖琴で、暖炉の柱頭やドアの取手など随所に見ることができます。彫刻家カルポー(1827~1875年)作のシャルル・ガ

